

## バイリンガル絵本 The Found Tree に寄せられた感想

……以下は、2022年頃、日本文に寄せられた感想など。この時点で、英文や絵はまだ有りません。……  
「噴火時の様子がよくわかりますね。とくに指摘するような箇所は見当たりませんでした。出来上がりを楽しみにしております。」

「読ませていただきましたが、『迷子椎』の記述が少ない気がします。

一点は、この時の大噴火で、何万本もの巨木が枯れました。が、『迷子椎』の付近の巨木は残りました。そこを強調したらどうですかね。生き残ったのが、不思議です。

この木は樹齢約300年近く生きているので、何かしらの魂が宿っているのかもしれませんが、ただし、満身創痍の木でもあります。多分支えている柱が折れれば倒壊するような現状です。」

「島の歌が入り、島暮らしの情感が伝わっていいですね。島と家族を愛する薫さんを通して、迷ってもあの椎の木があれば帰る場所がわかるという話も、火山噴火の災害の大きさにもあきらめないうで、島を愛し続ける人の心に触れた感じがします。朗読としても分かりやすい。でも山腹というのは、ちょっと浮かびにくいのでは？ 山肌やまはだ、と言い換えたほうが伝わりやすいと思います。」

「原稿拝見しました。これはこれで、直さずにそのままいくべきかと思います。

正直、目を通して、ハタと困りました。緑豊かで生まれ育った故郷に愛着を持ち、思いを馳せることは当然とは思いますが、20年周期で噴火を繰り返す島、いわば危険と隣り合わせの地に執着する思いが、どこからくるのかが、伝わってこないのです。

わが身を振り返りますと、〇〇という地に愛着を持ち、住み続けたい思いはあります。確かに、南海地震・津波に襲われることが分かっている、です。それが、何故なのか、私には明確には分かりません。〇〇の人が好き。海、山、川に恵まれ、美味しい食べ物があり、いつでもどこでもアウトドアが楽しめるといったことはあげつらうことができます。地震・津波に本気で備えるなら地盤の強固な高台への移転を考えることもできないことはないです。

火山被害が避けられない三宅島では、いざとなれば、島外に避難するしかありません。そこにあえて住む“芯になるようなもの”が表現できたら、いいと思うのですが。どうしたらいいか、私には名案が浮かびません。……命のバトンでは命を救う大切さが伝わってきたように思いますが、今回はそういったものを感じませんでした。原稿は描写も適切ですし、問題ないと思います。主題が明確になる工夫ができるのであれば、もっとよくなると思います。」

「先日頂きました防災童話「迷子椎」につきまして、噴火の時系列や島節について確認しましたのでお知らせいたします。噴火や全島避難の時系列は事実に基づいた流れになっておりましたので、問題はありません。……」

「防災絵本の記述について、〇〇課長より指摘がありました。

1ページ目の4行目にある『島の人たちの飲み水にもなっている大路池』とありますが、実際は大路池地下の地下水をくみ上げています。この表記ですと、大路池から直接水を汲んでいるように受け取れてしまうため、別の表現をお願いします。例えば、『伊豆諸島最大の淡水湖である大路池』、『島の鳥たちもあつまる大路池』等。」

「童話「迷子椎—三宅島大噴火—」も読ませていただきました。

先日トンガの噴火もありましたし、被災してしまった人のご苦勞を想像しました。

今は無事に暮らしていても、常に自然災害と隣り合わせで暮らしていることを忘れてはいけないなと思いました。特に気になる箇所等はありませんでした。」

「島節や子守歌が物語の中にはいつてくるのがいいなと思った。」

「防災童話の原稿を読みました。刻々と変わる噴火災害の被害について絵で表現すれば、村の人達のつらさが痛いほど伝わるのではないかと感じました。

自分も危機管理担当の時、富士山噴火の被害想定が現代社会の生活へ与えるダメージが大きいと感じていました。火山灰は、電気を止め、インターネットも遮断します。とても暮らしていけません。災害と隣り合わせに暮らしていく人がいることを理解できる作品となればと思いました。」

「ハクサイは夏の野菜ではない。スギ、ヒノキに加えて、シイも多く白く立ち枯れた。村の特別養護老人ホームに入っていた老人が全島避難中、多摩地区の施設からいなくなり、竹芝栈橋で見つかった。」